あさくらきずなメール
妊娠・子育てのメッセージが
LINEで届く▶▶▶
子育ての不安解消に

9月の催し

母子健康手帳交付

◀「親子健康カレンダー」に年間予定も掲載

《市健康課》平日8時30分～17時
《杷木支所》15日(木)9時30分～11時30分
■持ってくるもの
妊娠届出書、マイナンバーと本人確認ができるものなど

子育て応援プログラム

※各教室とも、場所はピーポート甘木保健福祉センターです。参加時には、母子健康手帳が必要です。

マタニティクラス(母親学級)

ママと赤ちゃんのための食事について。
■日時…13日(火)9時30分～12時
※9日(金)までに要予約
■持ってくるもの…筆記具

もぐもぐ教室

離乳食を始める生後4～6カ月の乳児と保護者の皆さんへ。
■日時…22日(木)10時～12時
※15日(木)までに要予約
■持ってくるもの…筆記具、エプロン

すくすく(育児)相談

子どもの成長、母乳、離乳食、遊び、歯みがき、トイレなど、気軽にご相談ください。身長・体重の計測も行っています。
■日時・場所 ※時間は10時～11時30分
①14日(水)／ピーポート甘木保健福祉センター
②15日(木)／らくゆう館
③21日(水)／朝倉地域生涯学習センター
■持ってくるもの…バスタオル1枚
※母乳相談の受付は11時まで。別途フェイスタオル3枚持参。

乳幼児健診（対象者に個別で通知します）

【甘木・朝倉地域の人】

対象	日
1歳6カ月児(令和3年2月生)	7日(水)・8日(木)
3歳児(令和元年8月生)	8日(木)・9日(金)

■時間…12時45分～
■場所…ピーポート甘木保健福祉センター
■持ってくるもの…母子健康手帳
※4・10カ月児健診は市内小児科での個別健診を実施しています。
※新型コロナ感染症対策のため、密にならないように受付時間をずらしてご案内します。
問 申 市健康課(☎22-8571)

おはなし会

各図書館で、絵本の読み聞かせのほか、わらべうたを一緒に歌ったり、みんなで手遊びをしたりします。
※参加する場合は、検温・手指の消毒を館内で行うほか、マスクの着用(2歳未満は不要)をお願いします。

【中央図書館】
おはなし会(幼児～小学生向け)
■日時…毎週土・日曜日14時～
ぴよぴよおはなし会(0～2歳児向け)
■日時…14日・21日(水)11時30分～
【あさくら図書館】
あかちゃんおはなし会(0～1歳児向け)
■日時…3日(土)11時～
みんなのおはなし会(幼児～小学生向け)
■日時…10日・17日・24日(土)11時～
おひさまおはなし会(幼児～小学生向け)
■日時…23日(金・祝)11時～
【はき図書館】
わくわくおはなし会(乳幼児向け)
■日時…27日(火)11時～

つどおう 子育て広場

親子が気軽に集い交流したり、育児相談を行ったりしています。詳しい内容や行事などはそれぞれの広場まで。

子育てほっとサロン「つどいの広場」
(堤1413)(☎080-6439-1851)
生い立つ地域子育て支援センター
(菩提寺606-1)(☎24-5203)
ひろにわ地域子育て支援センター
(入地2607-1)(☎080-8352-4178)

▲つどいの広場
▲ひろにわ

Pick Up

音の出る玩具(アンパンマン太鼓)

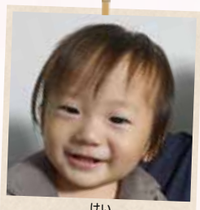
■日時…7日(水)・16(金)10時～11時30分
■場所…《7日》馬田コミュニティセンター
《16日》生い立つ地域子育て支援センター
身近にある材料で子どもたちの大好きなアンパンマンとばいきんまんのリバーシブル太鼓を作ります。 ※託児あり

保護者へのサポートカUP講座

■日時…10月6日・13日・20日(木)10時～16時
■場所…朝倉地域生涯学習センター
■講師…江上千代美さん(福岡県立大教授)

▲詳しくは市ホームページへ

あさくらっこおめでとう



手島 慶(けい)ちゃん
令和3年9月11日生（持丸）

熊谷 心凛(ここり)ちゃん
令和3年9月1日生（入地）

佐々木 一榎(いちか)ちゃん
令和3年9月20日生（甘木）

森田 伶晟(りんせい)ちゃん
令和3年9月29日生（甘木）

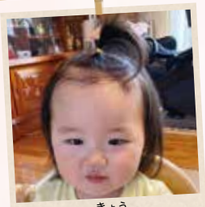
金子 蒼依(あおい)ちゃん
令和3年9月1日生（頓田）

植田 凛音叶(りおか)ちゃん
令和3年9月17日生（一木）

野村 梨華(りんか)ちゃん
令和3年9月27日生（小田）

岩下 友紅(ゆあ)ちゃん
令和3年9月1日生（持丸）

才田 菜央(なお)ちゃん
令和3年9月2日生（牛木）



伊東 暁(きょう)ちゃん
令和3年9月17日生（三奈木）

半田 桜愛(さくら)ちゃん
令和3年9月3日生（一木）

中山 琉斗(りゅうと)ちゃん
令和3年9月14日生（屋永）

原野 桃寧(もね)ちゃん
令和2年9月30日生（来春）

河口 慎(しん)ちゃん
令和2年9月10日生（甘木）

HAPPY BIRTHDAY

申込期間 10月生まれ（10月号）の申込は **9月8日**（木）まで

申込条件 満1～3歳の子どもが対象。定員18人（先着順）。申込多数の場合、満1歳の子どもを優先して掲載します。

申込方法

①メール（jinji-kouhou@city.asakura.lg.jp）
写真データを添付し、子どもの氏名（ふりがな）・生年月日・住所・連絡先（保護者氏名）を明記。送信後、市人事秘書課（☎22-1117／平日8時30分～17時15分）へ電話してください。

▲こちらから簡単申込

②来庁
写真データを、市人事秘書課（本庁3階）または朝倉・杷木支所市民窓口係（1階）へ（USBメモリ不可）。

前向き子育て 定期便

皆さんの子育てが少しでも楽しくなるように子育て力アップを支援する**「前向き子育て応援」**。
誰だって子育て中は迷い悩みます。「なぜ？ 片づけない？」「なぜ？ 食べない？」「なぜ？ 下の子に意地悪する？」そんな日常の**「なぜ？ なぜ？」**に、前向き子育てで**「なるほど、そういうこと」**と**小さなスッキリ**。前向き子育てプログラムの具体的な内容を定期的にお届けしていきます。
問 市子ども未来課（☎28-7568）

▲前向き子育て定期便は市ホームページでも詳しく掲載

「どうしてけんかをするの？」

「お兄ちゃん（お姉ちゃん）が貸してくれない」などと下の子の「訴え」や「泣き声」で、親は、子どもたちのところに駆け寄って「お兄ちゃん（お姉ちゃん）なんだから貸しなさい」「どうして、いつもけんかばかりするの？」などと、けんかの仲裁をしたことがありませんか？ きょうだいで一緒に遊ぶ時間が多くなると、けんかやトラブルが起きる可能性は高くなります。しかし、「おもちゃの取り合いをする」「けんかをする」そのような状況が多くなると、きょうだいで「仲良く遊ぶ」ことを学ぶ機会がたくさんできるでしょう。

また、「仲良く遊んでいる時間」もありますが、このような時こそ、親は子どもたちのところに駆け寄ってみてはいかがでしょうか。子どものうれしい成長を発見できるかと思います。このような時に見逃すことなく子どもたちに注目している気持ちを伝えたり、具体的に認めたりする（褒めたりする）ことが大切になるでしょう。

シリーズ 人権

「助けて」と言える社会を

近年、引きこもりの問題は大きな社会問題になっています。その中でも、中高年（40～64歳）の引きこもりの人は全国で61万人以上いるともいわれ、80代の親が引きこもりの50代の子の生活を支えている状態が「8050問題」です。引きこもりの長期高齢化が進み、社会的孤立が深刻化しています。

引きこもりになるきっかけは「退職」によるものが多くみられ、次いで「人間関係」です。仕事上のストレスやハラスメントがきっかけで、人間関係が困難だと感じるようになると、再就労も難しくなりがちです。

ただし、引きこもりの人を無理やり家から連れ出したり、就職させたりすることは、本人から「安全地帯」を奪うことになり逆効果となる場合があります。若い時から引きこもる人もいますが、中高年になって「退職」や「病気」で引きこもる人もいます。

令和元年に起きた、元農林水産省事務次官長男殺害事件は、引きこもりの長男が、親のみならず周りにも危害を与えてしまうという不安から、親が長男を殺害したというものでした。事件の背景として、「犯罪を引き起こす前に、個人でなんとかすべき」という自己責任を追及する社会があります。そのような社会の中で、本人だけでなく、親も周りの人に「助けて」と言えなくなっている状況があるのではないでしょうか。このため、周囲に相談できないことで、支援の手が届かず、最悪の場合、死亡した状態で発見されることもあります。

引きこもりの問題には、「本人の孤立の問題」と「家族の孤立の問題」の2つがあり、社会的な事件を引き起こす原因となることもあります。

また、自分から「助けて」と言える人なら支援も受けやすいのですが、声をあげられない人、特に中高年の世代は、行政などの支援も受けにくいとされています。このように、世間との関係を絶たれて、自力では引きこもりから抜け出せなくなります。

このような状況にある人たちが、「助けて」と声をあげられる社会をつくるために、私たちに何ができるか考えていくことが必要ではないでしょうか。

問 市人権・同和対策課（☎52－1174）

広報文芸

俳句（矢野俊一選）

アロハシャツ足取り軽し夕散歩　網棚に置き忘られし夏帽子
甘木　吉澤　孝夫　堤　柏木　勝利

まくはうり浮かぶバケツに水溢る　秋晴れに仕上がって来る草木染
美奈宜の杜　重松　眞　甘木　仲山　尚山

冷房に頼りて眠る熱帯夜　コンビニの鰻丼求む大暑かな
中原　矢野エイ子　牛鶴　長野　京子

川柳（お題「音」）（益永克之選）

せせらぎの潭空庵（たんくうあん）に涼をとる　連日の茹（うだ）る暑さに音を上げる
持丸　小宮　道子　一木　田中　妙子

雷鳴の遠のいてから帰路につく　エンジンの音であなたの帰り知る
甘木　神宮司美和子　下渕　桑野　照子

すれ違う友の挨拶クラクション　「りいんりいん」と鳴く鈴虫に夢心地
美奈宜の杜　宇都　信泰　杷木久喜宮　佐藤　敬二

【広報文芸応募方法】はがきまたは封書に三句以内（一人一通限り）と住所・氏名・電話番号（連絡の取れる番号）を記載し、9月8日（木）までに直接選者に応募。応募作品は、未発表・自身の作品に限る。応募の際は、今一度ご確認ください。

■川柳次の題…「秋」

【応募先】《俳句》矢野俊一さん（〒838－0068 朝倉市甘木1929－2）
《川柳》益永克之さん（〒838－0061 朝倉市菩提寺523－2）

朝倉の魅力 見つかる、つながる

地域おこし協力隊通信 vol.15 拡大版

3年間分のありがとう

地域おこし協力隊として朝倉に来て3年が経過し、協力隊の任期を終えることになりました。3年間本当にあっという間でした。

私が来て半年ほどで新型コロナウイルスが流行し、朝倉グリーンツーリズム協議会では農村民泊での教育旅行の受け入れができなくなりました。子どもたちと関わる機会が全くなく、しばらくは事業ができない時期がありました。そのような状況が続いていましたが、農業体験の受け入れは令和3年から徐々にできるようになり、子どもたちと関わる機会も増えてきました。

子どもたちの中でも特に印象的だったのが、農業体験に訪れたある一人の女子中学生のことです。

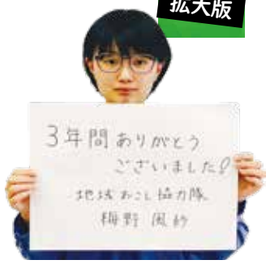
袋いっぱいの里芋

その日は里芋掘りの体験を行っていて、畑の中で生徒たちが思い思いに里芋掘りを楽しんでいました。初めて農具を使う男子たちははしゃぎながら作業し、女子たちは恐る恐る里芋を掘っていました。その中で、一人の女子生徒が汚れるのも気にせず一生懸命に土を掘り返していました。近寄ると小さなビニール袋いっぱいに里芋を詰めていて「私、里芋が大好きなんです。だからたくさん持って帰ろうと思って」と、うれしそうに話してくれました。最後はビニール袋が破けるぐらいたくさんの里芋を詰めて、楽しそうに体験していた姿をよく覚えています。

後で聞いた話ですが、その子はあまり学校に来られない生徒で、先生が「初めてあんなに楽しそうに笑っているのを見ました」と言っていました。

その生徒の姿や話を聞いて、農泊体験で普段できない経験や地域の人との交流を通して、どんな子どもたちにとっても、忘れられない楽しい思い出を作ることができるのだと思いました。また、子どもたちとの交流を通して受入を行っている地域の人たちも元気にできる、朝倉グリーンツーリズム協議会の取組は本当に素晴らしいものだと感じました。

他の体験の際にも、初めは緊張した表情の生徒たちが、帰る時には明るい表情に変わっていて、「帰りたくない」と泣き出す子もいました。受入を行っている地域の人たちも皆さんいい人ばかりで、話を聞くたびにいつも楽しんで受入を行っているのを感じます。



これからも伝えたい朝倉の良さ

この記事を読んで、朝倉グリーンツーリズム協議会の活動に興味を持って、自分もやってみたいと思ってもらえる人が少しでもいると幸いです。

最初は不安に感じることもありましたが、今では朝倉に来て本当によかったと思います。地域おこし協力隊になって朝倉の皆さんと関わる中で、以前よりも自分の住んでいる地域がどのような場所なのか、どのような人がいるのかなど関心を持てるようになりました。今後のことはまだ決まっていませんが、これからも出会う人に朝倉の良さを伝えていこうと思います。

今まで私を受け入れてくださった朝倉の皆さんには感謝の気持ちしかありません。本当にこの3年間、ありがとうございました。

これまでのあゆみ

令和元年 10月	地域おこし協力隊着任
	修学旅行受入
11月	中国訪日団受入れ
12月	福岡県就農支援モニターツアー
令和2年 2月	グリーンツーリズム先進地視察
11月	朝倉再興未来マルシェ
	あさくら魅力体感モニターツアー
令和3年 3月	博多阪急催事へ参加
7月	防災学習ツアー
12月	しめ縄教室
	修学旅行受入再開
令和4年 3月	みそ作り体験教室
5月	田植え体験
9月	任期満了

地域おこし協力隊の活動は、市ホームページから見られます。

※「地域おこし協力隊通信拡大版」のため、「今月の1枚＃あさくらいふ」は休載します。

ウォーターフェスティバル 2022
楽しみながら水の大切さを考えよう！

7月31日、あまぎ水の文化村で、ウォーターフェスティバルが開催されました。

当日は、ウォーターパレットが無料開放され、鮎のつかみ取り、ウォータースライダー、寺内ダムの除草隊として活躍中のヤギの総選挙など楽しいイベントが盛りだくさん。佐賀県から来た男性は「久しぶりにこのようなイベントが開催され、ありがたい。子どもたちも喜んでいます」と話しました。

子どもから大人まで、夏を満喫し、私たちの生活に欠かせない「水・自然」を感じられる一日となりました。

学校給食料理コンクール開催
地元食材で調理の技術を競う

7月29日、朝倉市学校給食料理コンクールが3年ぶりに開催されました。これは、給食調理員が、地元の食材を使用した「生きた教材」となる学校給食献立を考え、調理し、技術を競うコンクールです。

最優秀賞は、甘木中学校の内田千波美さんの作品で「麦ご飯、牛乳、白身魚のエスカベージュ、クロ豆のサラダ、切干大根のみそ汁」でした。

このコンクールを生かして、給食内容も充実していきます。

豊かな川にと願い込め
佐田川にヤマメを放流

8月1日、高木地区で、復旧した佐田川へのヤマメ放流が行われました。九州北部豪雨で甚大な被害を受けた高木地区の河川は、環境が大きく変わり、魚は減少。被災後5年間の復旧工事がほぼ完了し、魚がすむ豊かな川を取り戻そうと高木地区コミュニティ協議会が放流を企画しました。

この日は林市長や工事関係者、地元住民など約70人が参加。体長7センチほどのヤマメの稚魚約5000匹を川へ放流すると、ヤマメは元気よく川を泳いでいきました。同協議会の手嶋源五会長は、「河川復旧に携わった関係者の皆さんに感謝します。今後の復興は地元住民が中心となって進めていきたい」と話しました。

◀▲地元の子どもたちも参加し、楽しそうに放流していました。川岸に生息する「セキショウ」の移植も行われました。

約300年の伝統
甘木祇園山笠が3年ぶりに開催

現在の甘木祇園山笠神事は、7月1日の「お汐井とり」に始まり、13日の「子ども樽神輿」が町中を練り歩き、15日には「舁山笠」が町中を威勢良く引きまわります。元々は、江戸時代、疫病が流行したときに、神輿を造り御神体を遷して町中を練りまわしたことが始まりといわれています。

新型コロナウイルスの影響で延期が続いていましたが、今年は地元を中心に議論され、3年ぶりに規模を縮小して開催されました。

15日の「舁山笠」では、西流れ・東流れの2つに分かれてスタート。3年ぶりに駆けまわる山笠の勇壮さ、響きわたる参加者たちの力強い掛け声が、甘木のまちに活気を与えていました。

◀広報あさくら7月号で紹介した朝倉のフリーマガジン『アサクラノート』から、独自に甘木祇園山笠を取材したショートムービーが公開されています。あわせてご覧ください。

須賀神社夏越祭り開催
無病息災を願い「輪ごし」

7月31日、須賀神社（甘木）で夏越祭りが開催されました。毎年7月31日に行われる祭りで、茅を編んで作った直径2メートルほどの輪をくぐって、お祓いしてもらい、無病息災を願います。会場では地元小学生の俳句が飾られ、出店も並ぶなどにぎわいを見せていました。

誇りばもとうや！ あさくら

No.11

あさくらびと

地域で話題になっている人や団体、企業などを紹介するシリーズ。
第11弾は、朝倉市郡の地域活性化や社会貢献のため、青少年事業を中心に平和・防災事業にも取り組む朝倉青年会議所(JCI朝倉)の皆さんを取材しました。

Interview

理事長 **綾部 茂剛（しげたか）さん**
副理事長 **豊原 敏行さん**
専務理事 **矢野 正洋さん**

（写真は左から豊原さん、綾部さん、矢野さん）

子どもの元気が地域の未来に

JCI朝倉は、昭和45年に旧甘木市で設立され、今年で53年目になります。現在の会員数は26人で、平均年齢は35歳前後の若く元気なメンバーです。

JCIで長く大切にされてきたことは、地域活性化や社会貢献の活動。特に、子どもの元気が地域の元気に、そして、未来につながると考えており、子ども向けイベントの企画などを中心としています。子どもには活動を通して地域の課題や良さを学び、地域に対して誇りを持ってもらいたい狙いがあります。

継承されるJCI朝倉の思い

平和事業では、約40年前から始まった頓田の森平和花園の維持・管理を行っています。自分たちの身近で起きた悲劇を風化させず、次世代につないでいくための活動を続けています。これは歴代の先輩から脈々と受け継がれ、自分たちのアイデンティティの一つに。昨今の世界情勢を踏まえ、平和の大切さを再認識しています。

また、防災事業では、JCIの全国に広がるネットワークが生かされ、東日本大震災や熊本地震などへの支援実績もあります。JCI朝倉では、ボランティアセンターの設置運営に関して、平成29年5月に市社協と協定を締結。その直後に九州北部豪雨が発生し、物資の受入やボランティアセンターの手伝い、旧松末小体育館の泥だしなどに奔走しました。作業後、被災して沈みがちだった子どもたちに笑顔が戻ってきたのが印象的でした。

本音で話せる仲間と共に課題解決に取り組む

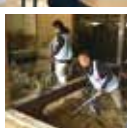
JCI朝倉にはさまざまな業種の会員がいて、会社の規模など関係なく、対等な目線で本音の交流ができます。ここでできた仲間は強い絆が生まれ、揺らぐことのない関係となり、仕事にもつながっていきます。

自分たちの活動は地域の課題解決が土台。「このまちには何がある？」と考えることから始まり、活動を通じて、地域のことをより深く知り、当事者として取り組むことで地域がより好きになります。

今後の活動の展望として、自分たちだけでなく、地域や行政、企業などを巻き込み、地域全体で活性化させるような良い循環を作り出したいと考えています。皆さんも一緒に活動してみませんか？

JCI (一社)朝倉青年会議所 ［甘木955-11(朝倉商工会議所3階) ☎22-8930］

Instagram Facebook



スローガン「ポジティブ・チェンジ」！
社会により良い変化をもたらそう

月1回の例会のほか、さまざまな活動を行っています。一緒に頑張る仲間やイベント参加者も募集中。興味のある人は気軽にお問い合わせください！

▲ホームページ

わくわく！ 子どもドローンチャレンジ！

座学でプログラミングについて学び、ドローンを飛ばす体験型の教室です。

■**期日**…9月18日(日)
■**場所**…あまぎ水の文化村
■**定員**…32人

▲申込はこちら

■発行 朝倉市役所 人事秘書課 〒838-8601 福岡県朝倉市菩提寺412-2
☎(0946)22-1111 FAX(0946)22-1118 top@city.asakura.lg.jp